

2026年3月期 第1四半期決算説明資料 트레이ダーズホールディングス株式会社

証券コード：8704
2025年7月31日



JPX-NIKKEI Mid Small



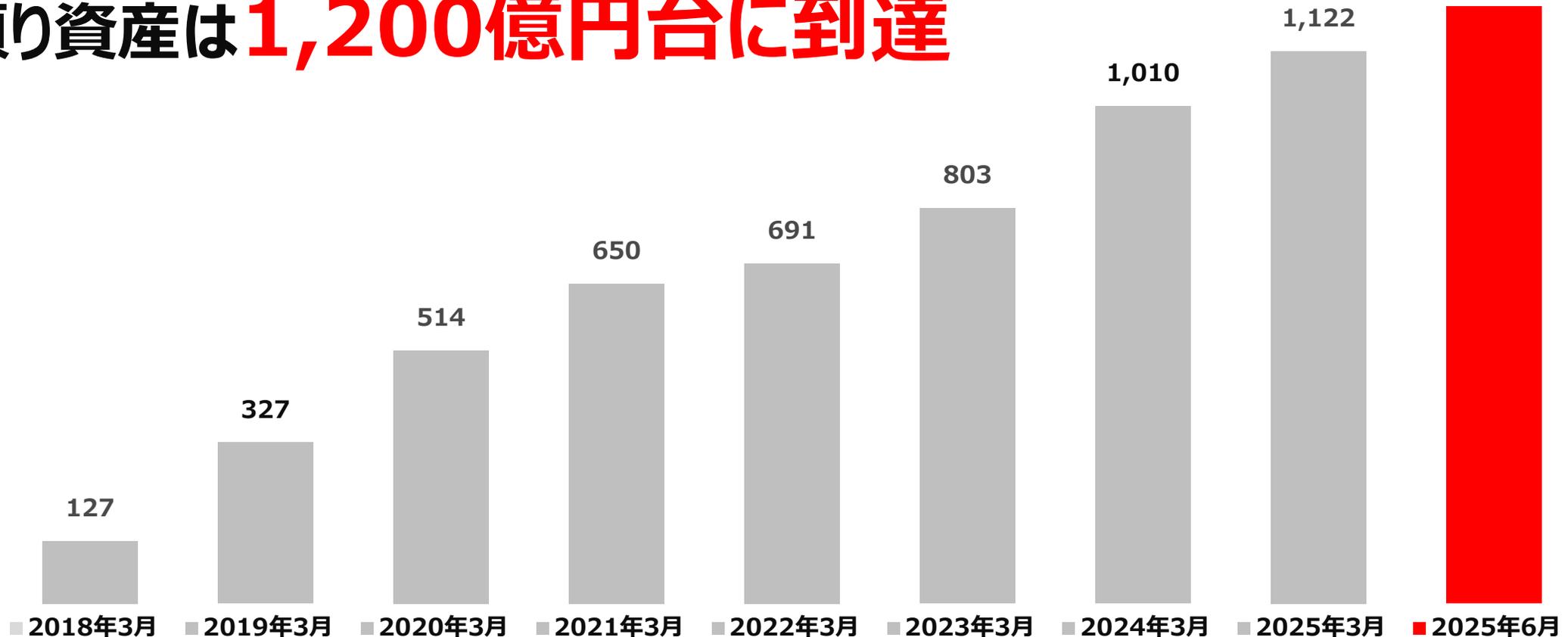
金融を、もっと面白く。

4月より満を持してみんなのFXに新通貨ペア 「LIGHTペア」導入

預り資産は**1,200億円台に到達**

(単位：億円)

1,213



新CMにロバート秋山竜次さんを起用！7月より放映中！

金融を、もっと面白く。



FXを、みんなでもっと面白く

みんなのFX



当社グループの競争優位性（金融とシステムの融合）

金融を、もっと面白く。



01

Cost

完全子会社であるグループ内システム会社による自社開発であるため、グループ全体としては

**原価でシステム開発が可能
開発コストを低減**

02

Speed

トレーダーズ証券とシステム開発担当者が同一オフィス内において現場との密接な連携が可能
コミュニケーションロスがなく
改善点の吸い上げ・即時修正対応が可能

**サービスリリースまでの
早期化が可能**

03

Quality

20年以上、FXシステムを開発してきたエンジニアたちが
当社FXシステムに専念し

**圧倒的な安定性と利便性
処理速度**を実現

04

Know-How

長期間FXに関して携わってきたことによる経験によって
高い問題解決能力を保持

自社内にノウハウは蓄積され
将来に渡って**競争力の源泉に**

- 1 2026年3月期 第1四半期業績ハイライト**
- 2 2026年3月期決算 業績予想**
- 3 業績予想達成に向けた2026年3月期の施策**
- 4 業績予想達成に向けた2026年3月期の施策進捗**
- 5 資本政策**
- 6 Appendix**

金融を、もっと面白く。

Traders

2026年3月期 第1四半期 業績ハイライト

2026年3月期 第1四半期 エグゼクティブサマリー

金融を、もっと面白く。



当期は、従来より当社が推進してきたスワップ訴求戦略において、主軸サービスである「みんなのFX」にLIGHTペアをリリースし、スプレッド・スワップともに業界最高をさらに更新した結果、預り資産は飛躍的に増加。営業収益は、日銀による大規模な為替介入やメキシコ大統領選に起因する市場の大幅な変動が複数回発生した前期と比較して、当期は市場における主要な変動要因に乏しく、減少。当社は固定費が多い構造のため、営業収益の下落幅に比して営業利益の下落率が拡大

| | 2025年3月期 第1四半期 | 2026年3月期 第1四半期 | 前年同期比 | |
|-------|-------------------------|-------------------|----------|---|
| 営業収益 | 3,513 百万円 | 3,018 百万円 | ▲ 14.1 % | ➡ |
| 営業利益 | 2,054 百万円 | 1,395 百万円 | ▲ 32.1 % | ⬇ |
| 当期純利益 | 1,485 百万円 | 1,079 百万円 | ▲ 27.3 % | ⬇ |
| 預り資産 | 1,122 億円 (2025年3月期末) | 1,213 億円 | + 90 億円 | ⬆ |

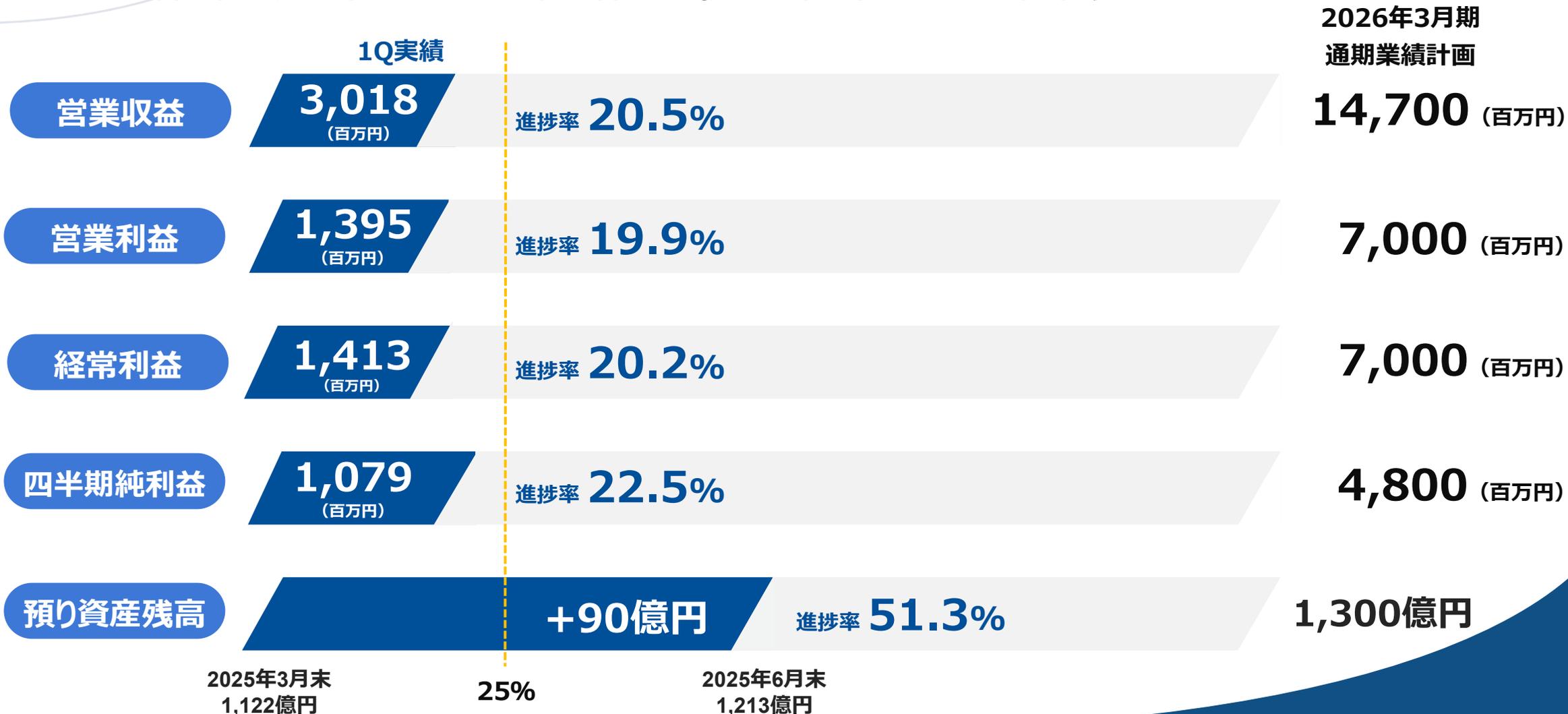
四半期連結業績進捗率

金融を、もっと面白く。



みんなのFXにおけるLIGHTペアリリースが奏功し預り資産の進捗率が6月末時点で50%超となり、
年間目標1,300億円達成に向け好調な発進

第2四半期以降の収益獲得に向けた土台の整備が着実に進捗、引き続き収益の基盤となる預り資産の増加を推進



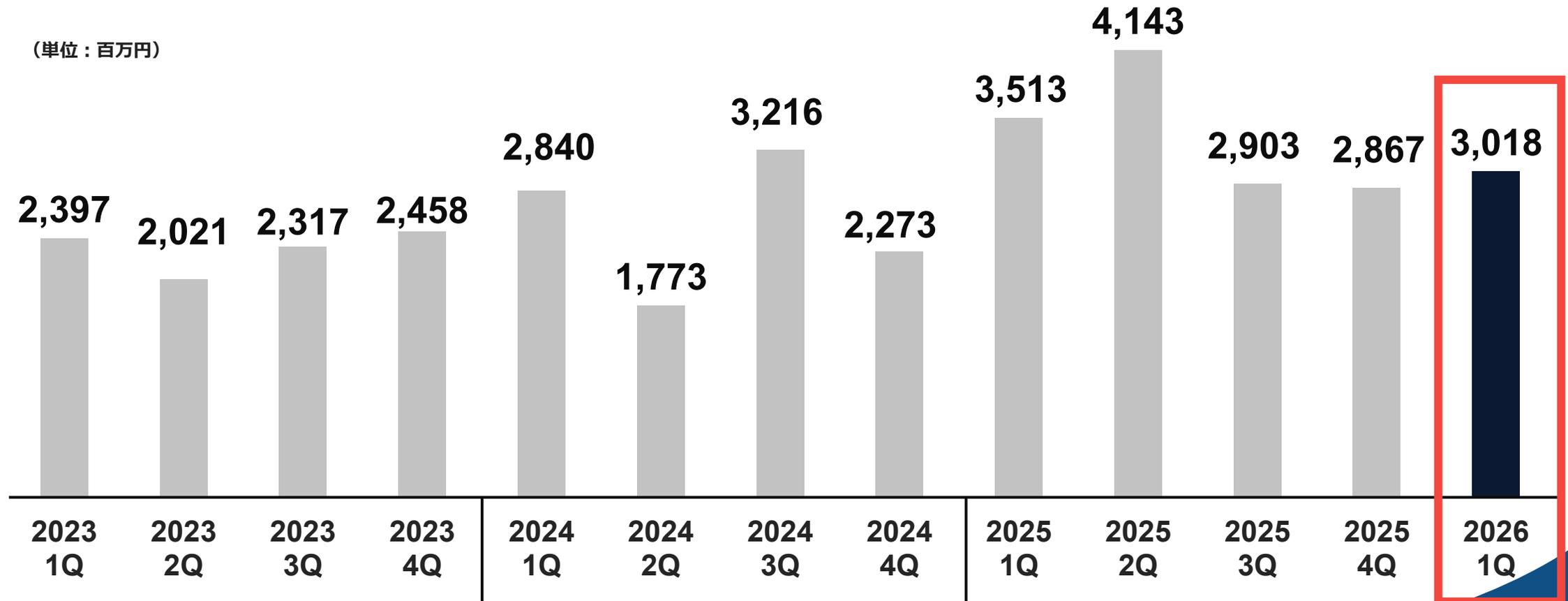
業績推移（営業収益）

金融を、もっと面白く。



- ✓ 預り資産の積み上げによりベース収益力が着実に増強し、大相場の発生がない期間における営業収益は中長期的に増加傾向
- ✓ 通貨別に分析を行うと、基軸通貨はボラティリティ上昇により営業収益を伸長させた一方で、2024年8月の為替相場急変時に建玉を大きく減らした新興国通貨は収益減となった

(単位：百万円)

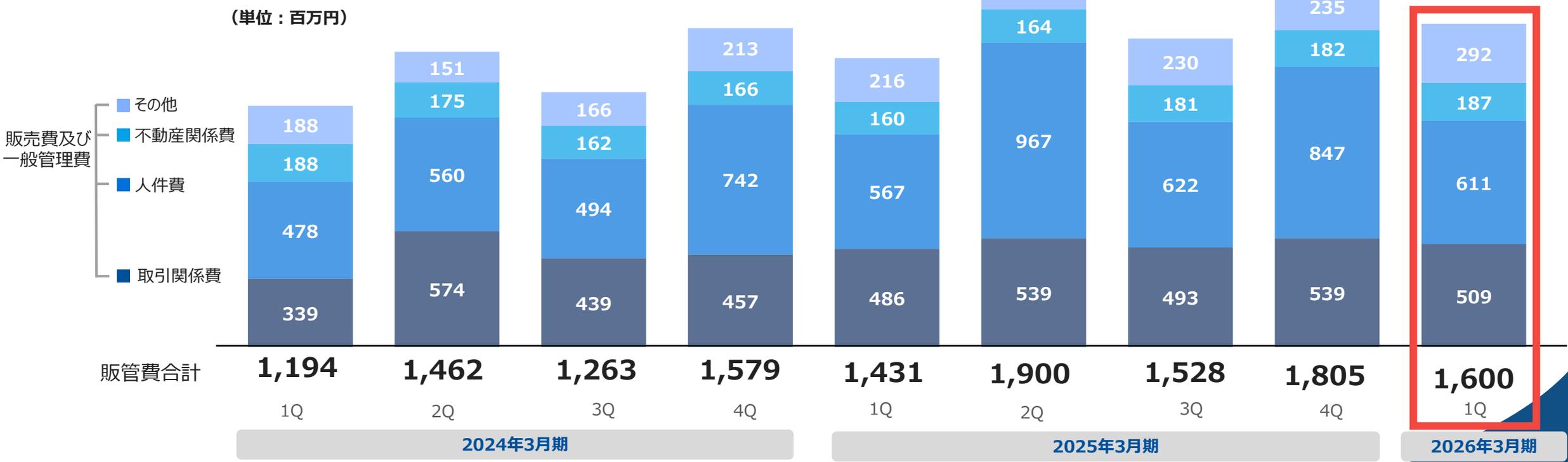


販管費の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 預り資産の中期経営計画目標達成に向けた広告宣伝活動に引き続き注力、取引関係費（広告宣伝費）は逓増傾向、投資成果も順調に発現
- ✓ 優秀な人材獲得は引き続き経営課題であり、高ROEと高賃金の両立の追求を継続させるべく人的資本投資は強化しており、人件費は逓増傾向
- ✓ 四半期会計期間における販管費合計額は第2、第4四半期において増加する傾向 同四半期で比較すると每期逓増傾向



【参考】連結業績の四半期ごとの比較

金融を、もっと面白く。



| (単位：百万円) | 2025年3月期 | | | | 2026年3月期 | 前年同期比 |
|-----------------|-------------------|-------------------|---------------------|-------------------|-------------------|--------|
| | 1Q (2024年4-6月) | 2Q (2024年7-9月) | 3Q (2024年10-12月) | 4Q (2025年1-3月) | 1Q (2025年4-6月) | |
| 営業収益 | 3,513 | 4,143 | 2,903 | 2,867 | 3,018 | ▲14.1% |
| 営業利益 (利益率) | 2,054 (58.5%) | 2,219 (53.6%) | 1,337 (46.1%) | 1,022 (35.7%) | 1,395 (46.2%) | ▲32.1% |
| 経常利益 (利益率) | 2,051 (58.4%) | 2,233 (53.9%) | 1,332 (45.9%) | 1,033 (36.0%) | 1,413 (46.8%) | ▲31.1% |
| 四半期純利益 (利益率) | 1,485 (42.3%) | 1,400 (33.8%) | 939 (32.4%) | 721 (25.2%) | 1,079 (35.8%) | ▲27.3% |

預り資産推移

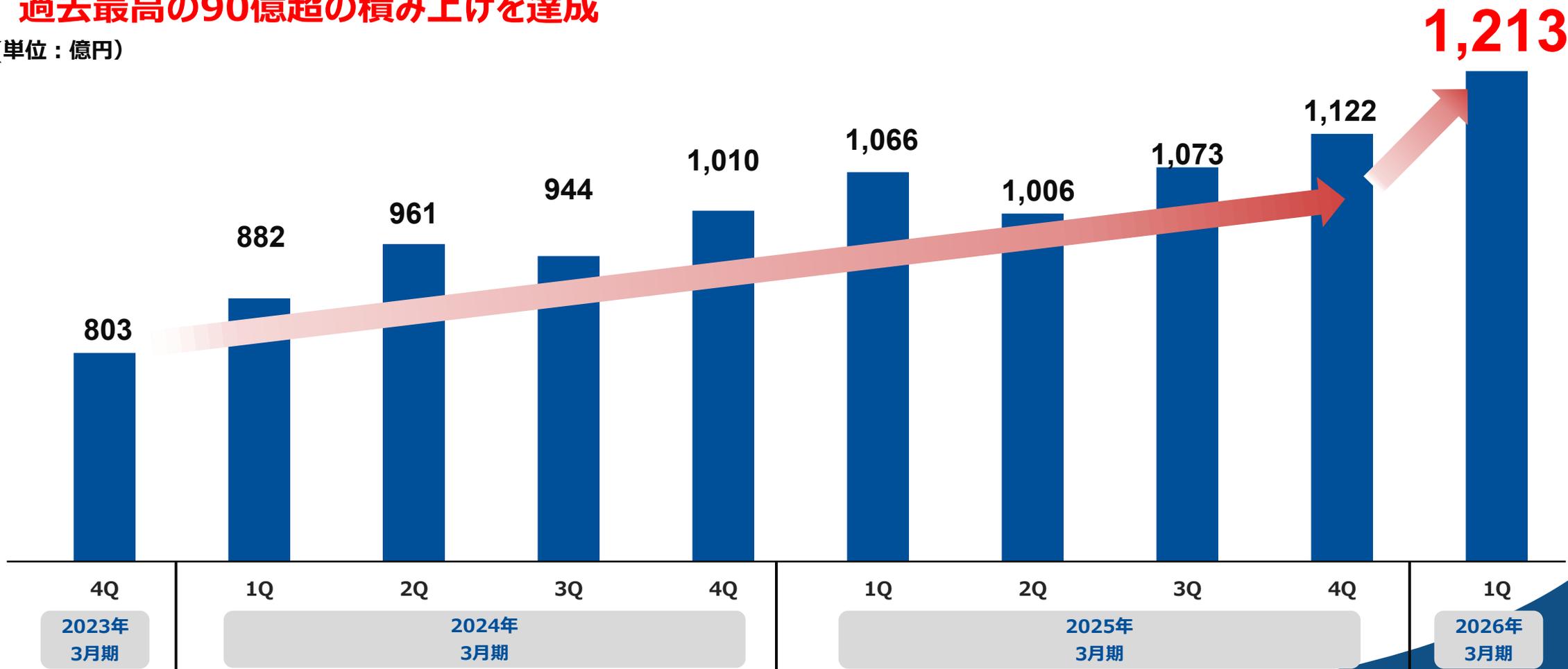
金融を、もっと面白く。



✓ 当社が推進してきたスワップ訴求戦略は、みんなのFXにおけるLIGHTペア追加によりさらなる高次元に到達し、商品性の向上を実現 顧客ニーズを着実に捉えた結果、四半期会計期間において

過去最高の90億超の積み上げを達成

(単位：億円)

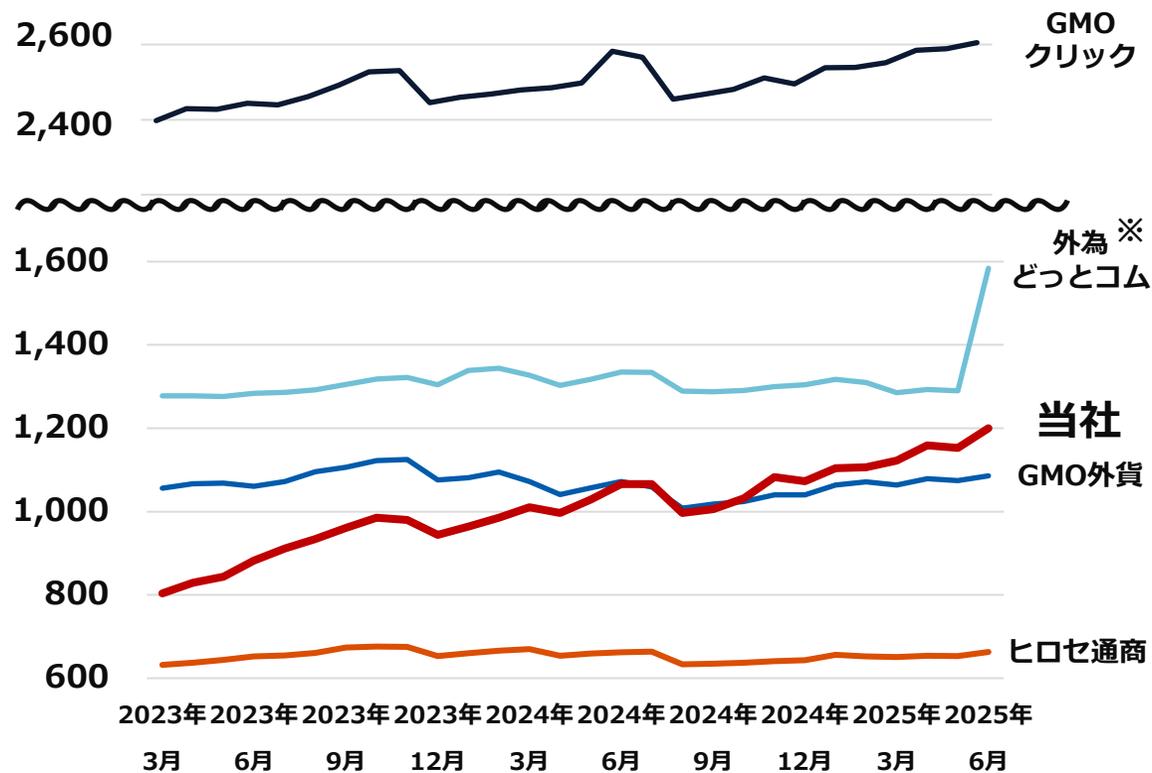


FX業界における預り資産他社比較

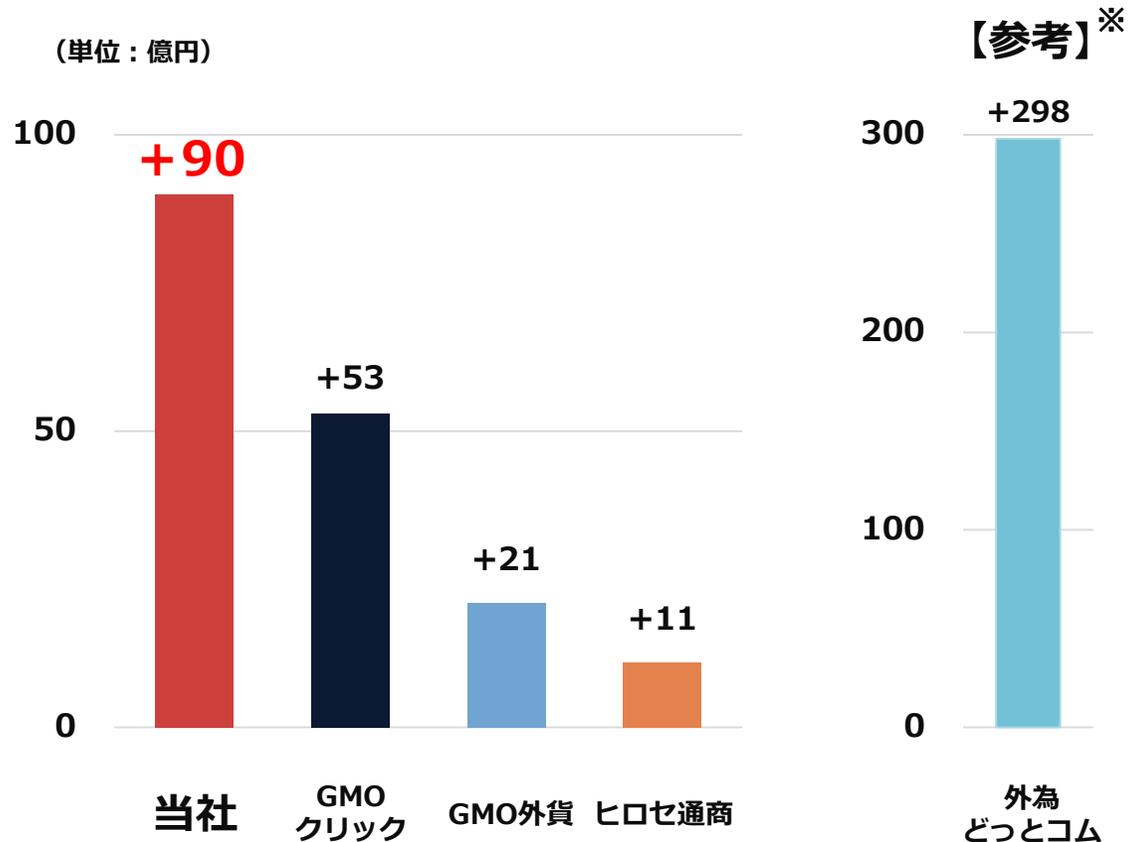
- ✓ 2025年4月～2025年6月までの3か月間で預り資産の増加額は当社がトップ（業界内統合に伴う移管分除く）
- ✓ 商品性向上とマーケティング活動積極化の両輪が力強く稼働し、中期的な増加率も当社がトップ

(単位：億円)

預り資産増減推移



預り資産増減表
(2025年4月～2025年6月)

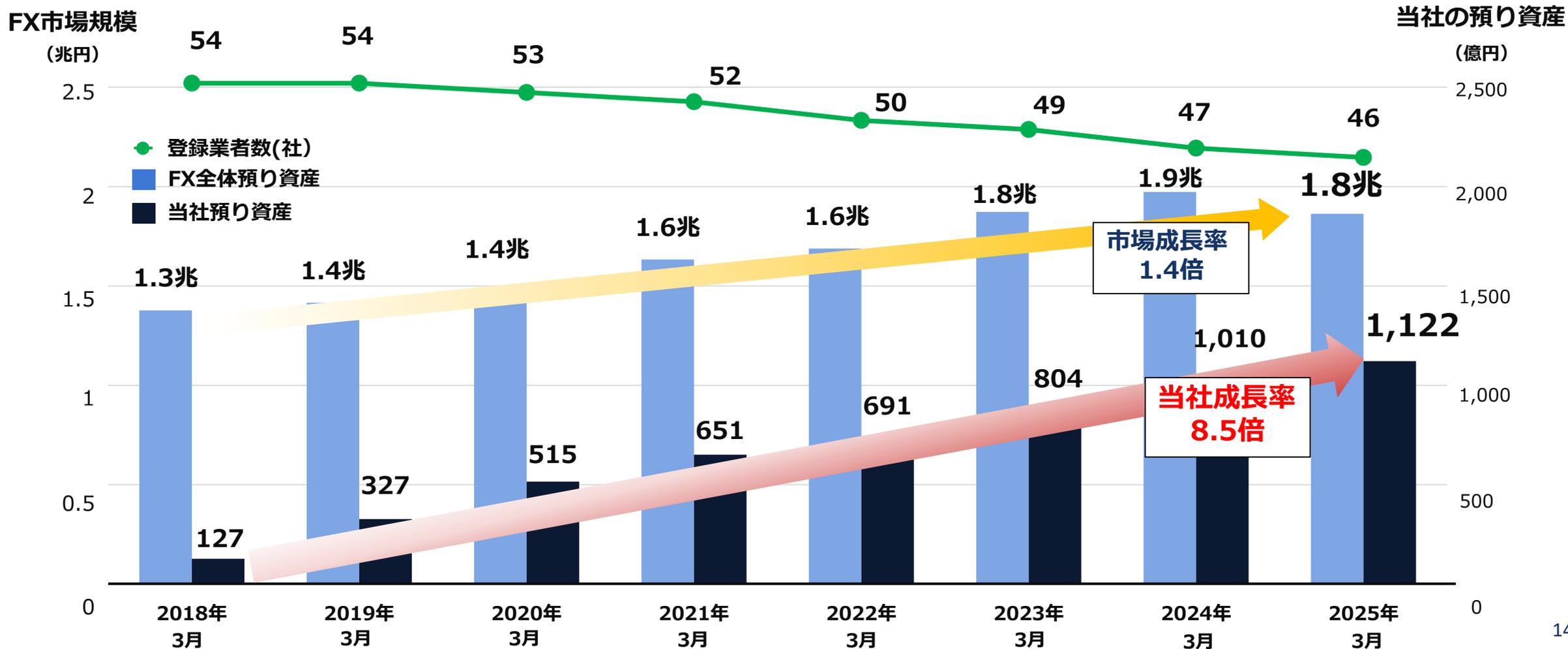


※外為どっとコム社の預り資産は2025年6月28日に行われたマネーパートナーズ社とのサービス統合に伴う移管分が含まれているため参考として記載しております。

出典：FXに関する月次預り資産をウェブサイト又は開示書類で公表している企業より掲載しております。

FX業界全体の預り資産および登録業者数の推移

- ✓ FX業界全体の預り資産は2024年末で約1.8兆円となり、7年間で1.4倍に成長しているが、登録業者数は1割減少
- ✓ 登録業者の選別、淘汰が進む中、当社の預り資産は7年で8.5倍となり、市場成長率を遥かに上回る成長率を実現



2026年3月期第1四半期 市況概況①

USDJPY (日足チャート)



市況概況

第1四半期のドル/円相場は、4月2日にトランプ大統領による包括的な関税政策の公表を受けて、世界の株式市場が大幅に下落し、リスク回避の動きから円買いが進行。その後、米国の関税政策が二転三転する中で、米経済指標の堅調な結果や利下げ観測の後退を背景にドル買いが優勢となり、相場は円安基調へ。

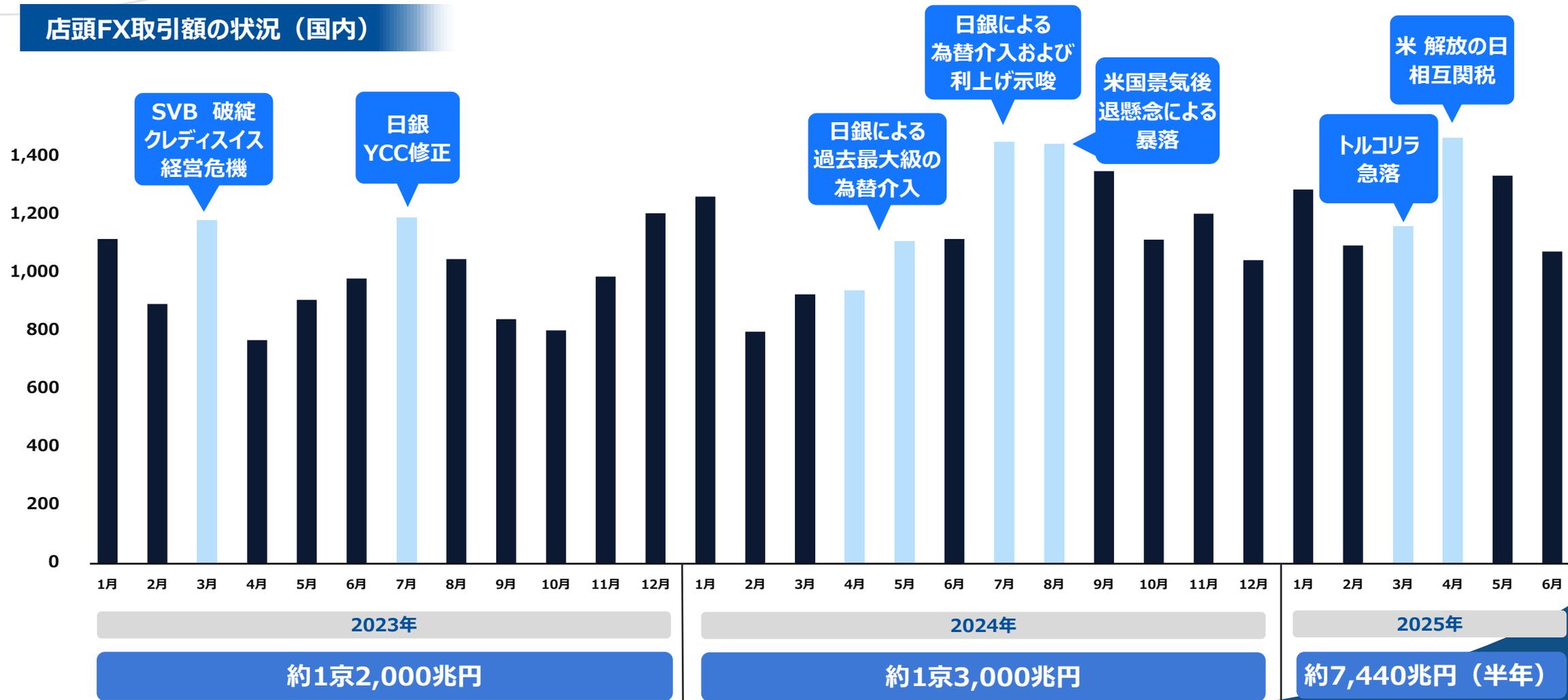
5月中旬には1米ドル = 148円台まで円安が進行したが、月後半には米雇用統計やインフレ指標が市場予想を下回ったことでFRBの年内利下げ期待が再燃し、一時的にドル売りが進む場面も見られたが、相場は概ね1米ドル = 142円台～146円台のレンジで推移。

6月に入っても、米経済指標の底堅さや日本銀行による緩和的な金融政策の継続を背景に円の上値は重く、一時142円台まで円高が進む場面があったものの、相場全体に大きな動きは見られなかった。

2026年3月期第1四半期 市況概況②

- ✓ アメリトランプ大統領による相互関税発表による影響で、引き続き市場環境は活況
- ✓ 2025年も店頭FX取引額は高水準で推移し、1~6月では過去最大となった

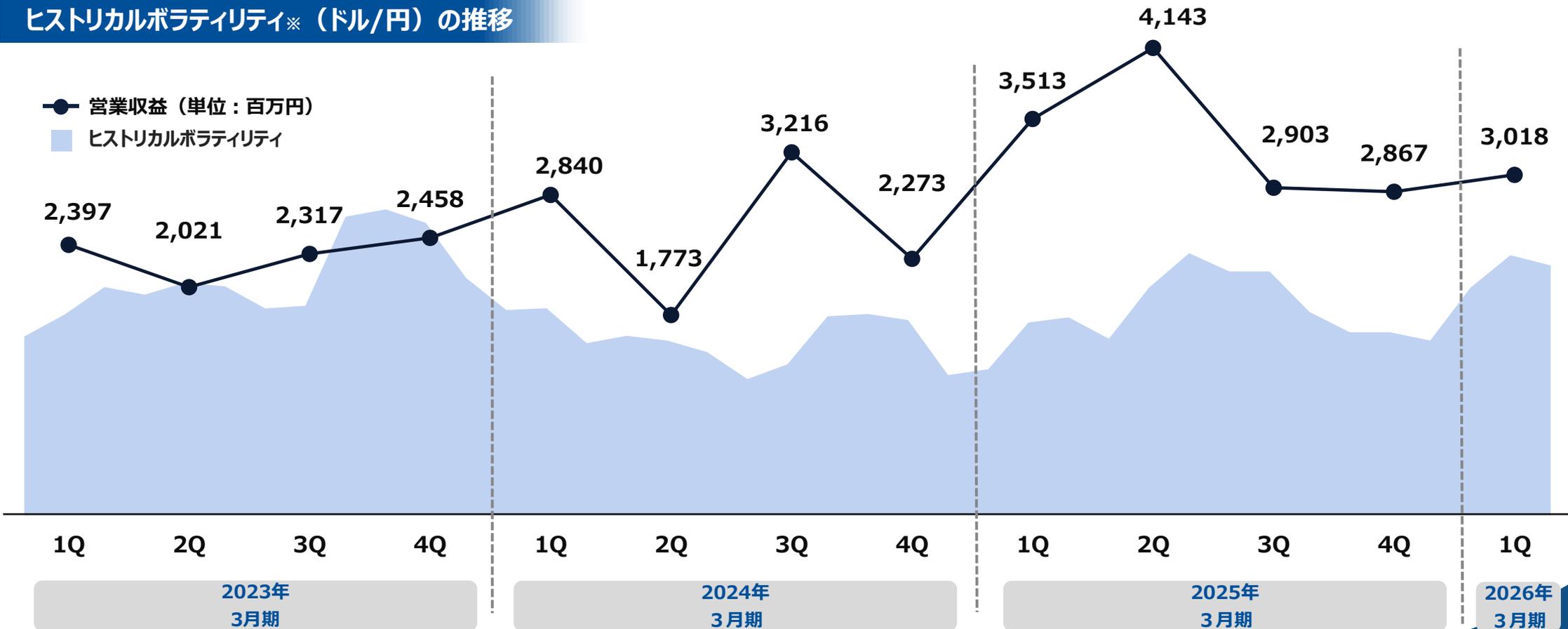
店頭FX取引額の状況（国内）



2026年3月期第1四半期 市況概況③

✓ 投資家がアメリカトランプ大統領の関税政策等動向に注意を払ったことによりドル/円の為替相場は活発な取引が継続

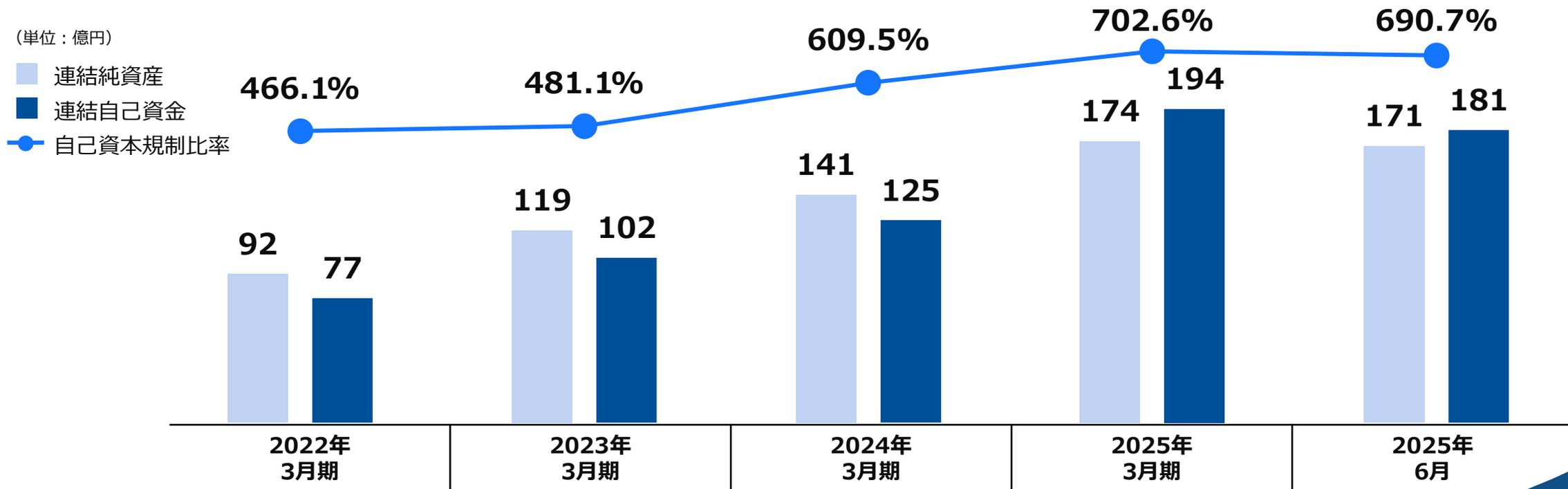
ヒストリカルボラティリティ※（ドル/円）の推移



※ヒストリカルボラティリティとは、テクニカル分析手法の一つで、過去のデータに基づいて統計的に算出した価格の変動率のこと。
過去の価格変動が小さければ、ヒストリカルボラティリティは小さくなり、過去の価格変動が大きければ、ヒストリカルボラティリティも大きくなる。
上図では四半期会計期間である過去60日の値動きデータに基づき計算。

連結純資産および連結自己資金並びに財務安全性の推移

- ✓ 当期第1四半期末の純資産残高は自己株式取得と配当支払の影響で対前期末比で減少したが中長期的には増加傾向
- ✓ 自己資本規制比率は700%近辺で推移し、ストレステストの余裕率も上昇、将来のFX事業拡大に対するリスク許容度が向上
- ✓ 預り資産が増加している中で相場環境の活発化に伴いリスク量が増加傾向にあるが、リスク合計が資本を上回ると規制に抵触し取引抑制を余儀なくされ収益機会を逃す可能性が生じる
- ✓ トレーダーズ証券の資本の積み上げが非常に重要であり、内部留保を事業への再投資と捉えている



(注) 連結自己資金 = 連結現金預金 + 短期差入証拠金 - 有利子負債
 (資金のうち顧客分別金を除いた当社グループに帰属する短期の自己資金)

金融を、もっと面白く。



2026年3月期決算 業績予想

2026年3月期 通期連結業績予想

金融を、もっと面白く。



- ✓ 預り資産前期末残高の中期経営計画に対する未達分の約30億円を2026年3月期にみんなのFXにおけるLIGHTペア追加でリカバーする計画は想定通り
- ✓ 当社は通期の預り資産増加に伴う収益の発生態様を統計的見地から見込んで通期業績予想の営業収益を算出しており、第2四半期以降の状況を注視することとし、業績予想の修正は行わない

| (単位：百万円) | 2025年3月期 (実績) | 2026年3月期 (予想) | 増減 |
|---------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 営業収益 | 13,429 | 14,700 | +1,270 |
| 営業利益 (営業利益率) | 6,634 (49.4%) | 7,000 (47.6%) | +365 (▲1.8%) |
| 経常利益 | 6,650 | 7,000 | +349 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 4,547 | 4,800 | +252 |
| 預り資産 | 1,122億円 | 1,300億円 | +177億円 |

金融を、もっと面白く。



業績予想達成に向けた2026年3月期の施策

みんなのFX 待望の“LIGHTペア”をリリース

金融を、もっと面白く。



- ✓ LIGHT FXでリリース済の業界最高スプレッド・スワップ“LIGHTペア”をみんなのFXから4月にリリース
- ✓ みんなのFX“LIGHTペア”は“さらなる業界最高”のスワップと小数点以下4桁の圧倒的スプレッドを提供



LIGHT FX“LIGHTペア”を上回る
スワップ・スプレッドを提供

2025年4月 みんなのFXにも
“LIGHTペア”を導入

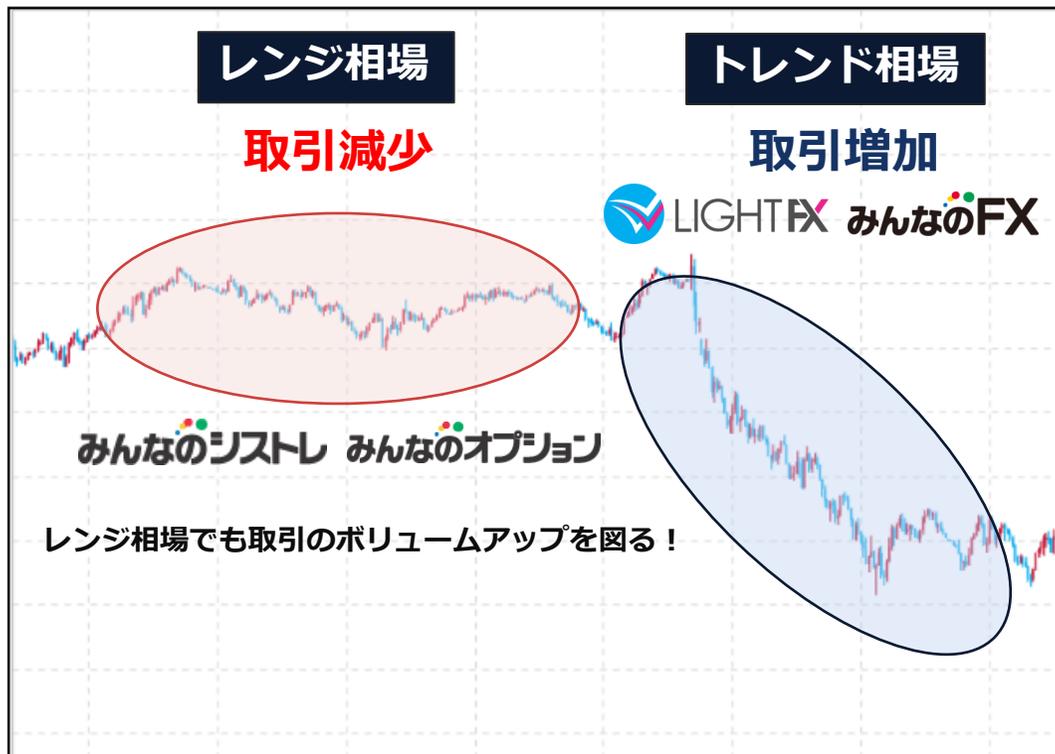
- ✓ 通常の通貨ペアと比較して、受取スワップポイントがさらに増額&スプレッドがさらに縮小された、初心者も経験者も取引しやすい通貨ペア
- ✓ みんなのFX“LIGHTペア”では、各提示レートを「小数点以下4桁」まで表示顧客の収益機会を拡大

あらゆる相場環境に対応した安定的な収益源の拡大

金融を、もっと面白く。



- ✓ レンジ相場のような為替相場のボラティリティが低下した期間における収益力強化が経営課題
- ✓ あらゆる収益機会に対応した戦略が選択可能なシステム・トレードの強化、短いスパンの相場展開を予測するバイナリーオプションは、レンジ相場での取引機会を提供し、さらなる収益獲得を目指す



みんなのリストレ

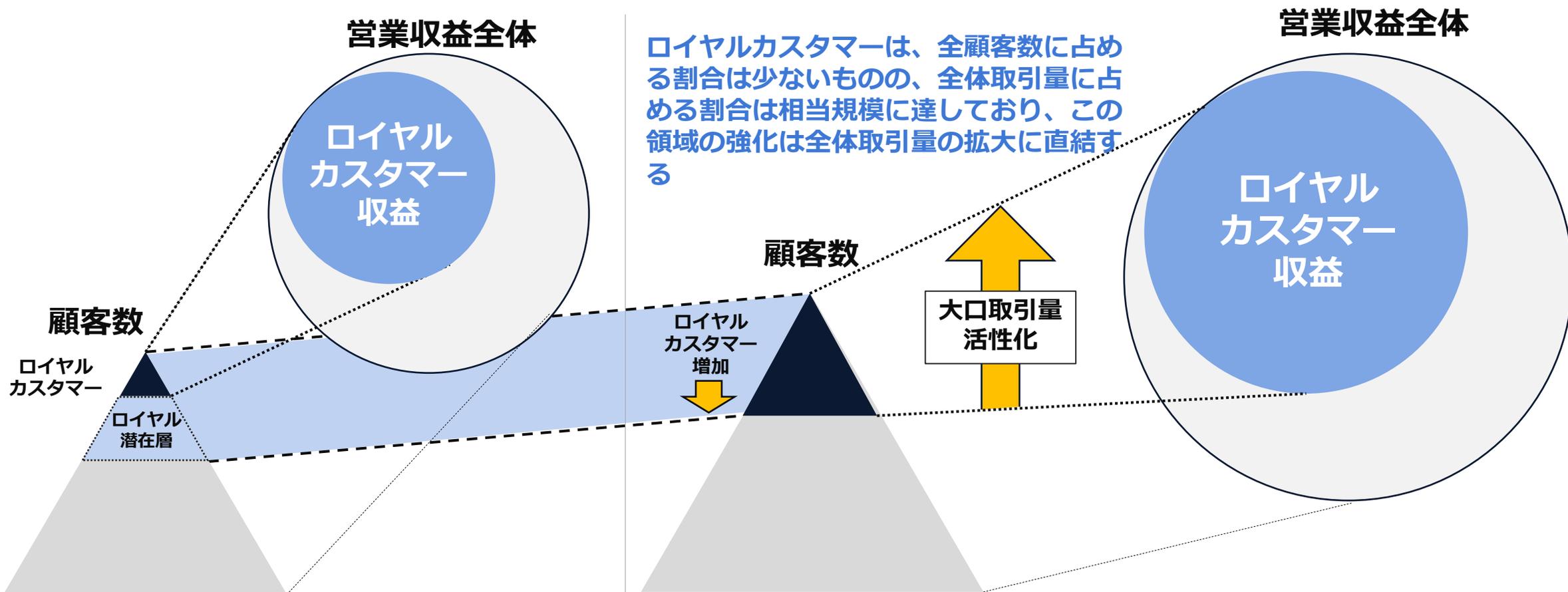
- ✓ 約定処理システムの外部システムから自社開発システムへのリプレイスが2025年4月をもって完了し、ネックとなっていた約定処理能力は飛躍的に向上
- ✓ シストレは取扱い業者が少なく、本格的なシステムを有する当社が強みを発揮できるフロンティア
- ✓ 今後様々な相場展開に対応した戦略を大幅拡充予定

みんなのオプション

- ✓ バイナリーオプションは、規制強化によって取扱業社数が減少するも、根強いニーズによって一定の市場規模が継続
- ✓ 当グループはこれまでシステム開発の優先度をFXに充てていたため、バイナリーオプションの強化が後手に回っていたが、当期から本格的にシステム開発・改修にリソースを投入し、来期以降、本気の顧客囲い込みで再参戦する計画

大口顧客（ロイヤルカスタマー）戦略

- ✓ 前期から専門部署を設置して、大口顧客に対するコンサルティングを強化した顧客アプローチを導入、大口顧客との接点を強化して特別な関係の構築を推進
- ✓ 一年間の運用の結果、顕在化した大口顧客だけでなく、既存顧客層の中にコンタクト出来ていない潜在的なロイヤル層が多く埋もれていることが確認された
- ✓ 当期はさらにロイヤル対応へ注力し、エンゲージメント向上を計画 預り資産の増加と収益増加を見込む



金融を、もっと面白く。

Traders

業績予想達成に向けた2026年3月期の施策進捗

2026年3月期の取り組み（マーケティング）

▶▶ 4月導入のみんなのFXにおける「LIGHTペア」好調な滑り出し！
業界最高水準のスワップポイント提供により預り資産は急増
今期の預り資産目標1,300億円に向けて最高のスタートを切る

- ✓ 業界最高水準のスワップポイントの提供で顧客ニーズを完全に捉え、
預り資産は**3か月で約90億円増加**
- ✓ FX投資未経験者層に向けた訴求を強化し、さらなる新規口座開設獲得数の増加を図る

高スワップ
狭スプレッド



2026年3月期の取り組み（マーケティング）

▶▶ ロバート秋山さんを新CMに起用！7月より放映開始！

ロバート秋山さんの個性的な表現力を活かし、FX未経験者、経験者ともにブランド認知度向上へ

- ✓ ロバート秋山さんが様々な職業の最前線に立つ人になりきって演じる「クリエイターズ・ファイル」より、4人をイメージキャラクターとして起用
- ✓ 当社の強みである**スワップポイント投資の魅力**について
- ✓ 新CM 特設ページ
<https://min-fx.jp/specialpage2025/>



2026年3月期の取り組み（マーケティング）

▶▶ 2025年4月～6月 キャッシュバックキャンペーンや各広告施策を強化 預り資産および新規口座獲得数は順調に増加

- ✓ 「スワップ増額キャンペーン」
「ご入金で最大3%キャッシュバックキャンペーン」、
「スワップNo.1チャレンジキャンペーン」等の魅力的なキャンペーンを複数開催
顧客満足度向上、顧客収益機会拡大に寄与
- ✓ 広告施策の強化等により
新規口座獲得数も順調に増加
- ✓ FX投資未経験者層に向けた訴求を強化し、さらなる新規口座開設獲得数の増加を図る



2026年3月期の取り組み（大口顧客戦略）

金融を、もっと面白く。



▶▶ 大口顧客に向けた新たなサービス ロイヤルトレイダーズクラブをオープン予定

既存のロイヤル顧客に加え、潜在的なロイヤル顧客層の開拓を通じて取引量の拡大を目指す

- ✓ 当社が定める条件を満たした顧客のみを招待する
完全招待制にて運営
極めて高い特別感と他では得られない付加価値を伴う
サービスの提供を実現し長期的な関係構築と
顧客ロイヤルティの向上に貢献
- ✓ 直近の取引量を基にステータスを授与
各ステータスに応じてギフトや限定特典を提供することで
継続的な取引インセンティブの高度化を目指す
- ✓ クラブ会員の顧客を対象に、
著名講師による特別講演・講義・交流会へのご招待を実施
トレードリテラシーの向上を図るとともに
お客様の投資体験をより充実させ、取引量拡大を目指す



2026年3月期の取り組み（カバー取引収益性）

金融を、もっと面白く。



- ▶▶ 収益性の向上を目指し、Prime Brokerage契約の拡充を計画
国内外の金融機関をカバー取引先として追加し、より良い取引条件の提供とリスク分散を実現

【主要なカバー取引先】

- ・シティバンク
- ・UBS銀行
- ・バンク・オブ・アメリカ
- ・スタンダードチャータード銀行
- ・バークレイズ銀行
- ・コメルツ銀行
- ・東京金融取引所
- ・大和証券
- ・OCBC証券
- ・JPモルガンチェース銀行
- ・ドイツ銀行
- ・三菱UFJ銀行
- ・三井住友銀行

【2026年3月期】

- ・ **ゴールドマンサックス証券追加（6月）**

※2026年3月期、他の金融機関の追加をも予定



**全20社超の金融機関
カバーコスト削減による
収益最大化**

金融を、もっと面白く。



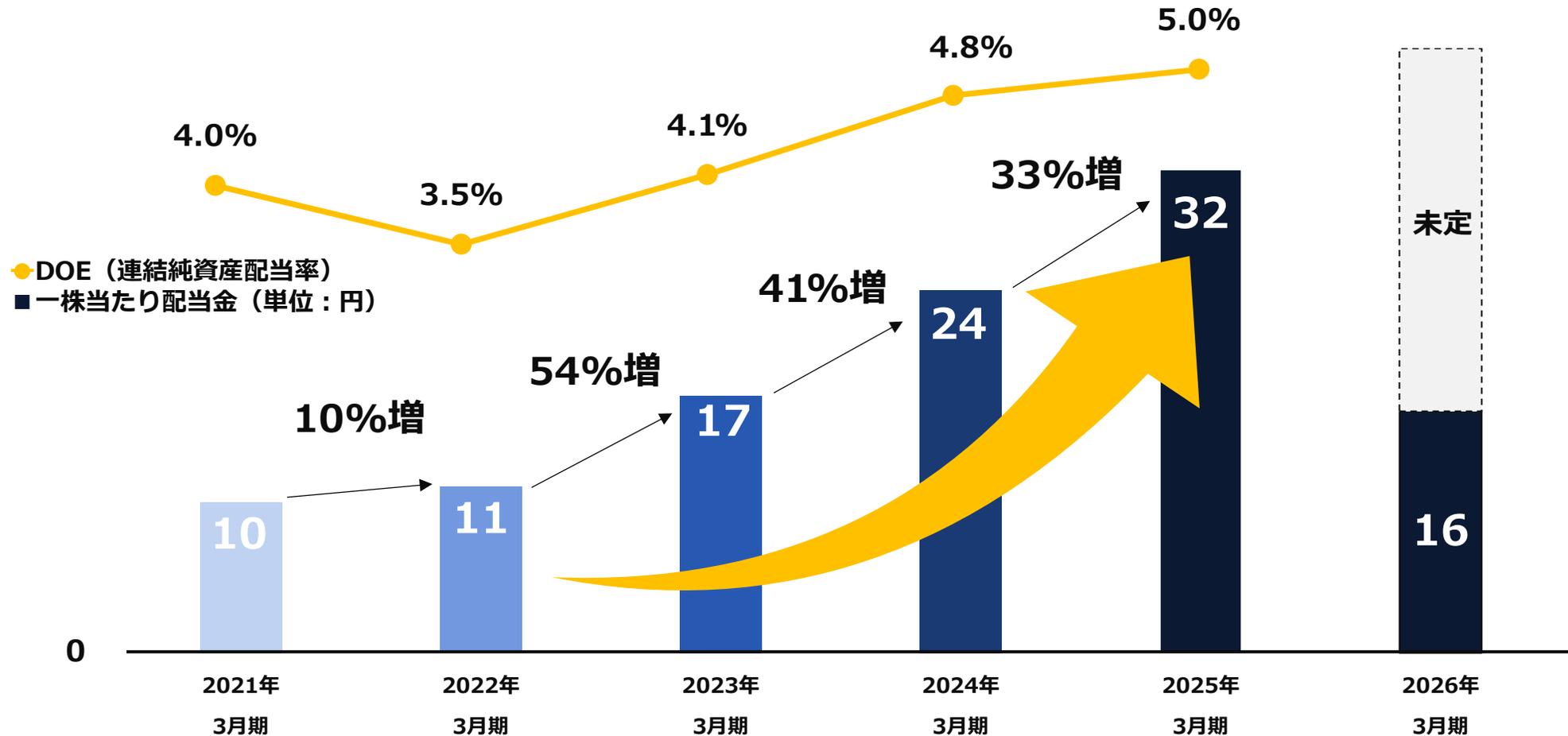
資本政策

株主還元

金融を、もっと面白く。



- ✓ 還元方針：連結純資産配当率（DOE）4%を目安に安定的な配当および機動的な自社株買いを実施
- ✓ 配当開始以降、4期連続で増配を実現 4年間で配当金額は**3.2倍** DOEでは**5%**
- ✓ 2026年3月期の中間配当金は1株あたり16円（前期の50%）を予定
- ✓ 期末配当金に関しては、通期業績の推移を見極め、不確実性が十分縮小されたタイミングで発表



特定の株主からの自己株式取得について

金融を、もっと面白く。



- ✓ 大株主である貴多株式会社から当社株式売却の意向である旨の打診あり、以下2点を考慮し、自己株式取得を決定
 - ①当該株式が短期間に市場に放出され売却されることとなった場合、市場における需給に大きな影響を及ぼす
 - ②役職員向けの譲渡制限株式付与やストック・オプション行使に充当する実需があることを鑑み、今後の資本効率のさらなる向上と経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行の観点で当社が自己株式として保有

自己株式の取得の概要

| | |
|----------|---------------------------|
| 取得した株式総数 | 780,000株 |
| 株式取得価額 | 797,940,000円（1株あたり1,023円） |
| 取得する相手方 | 貴多株式会社 |

ストック・オプションについて

金融を、もっと面白く。



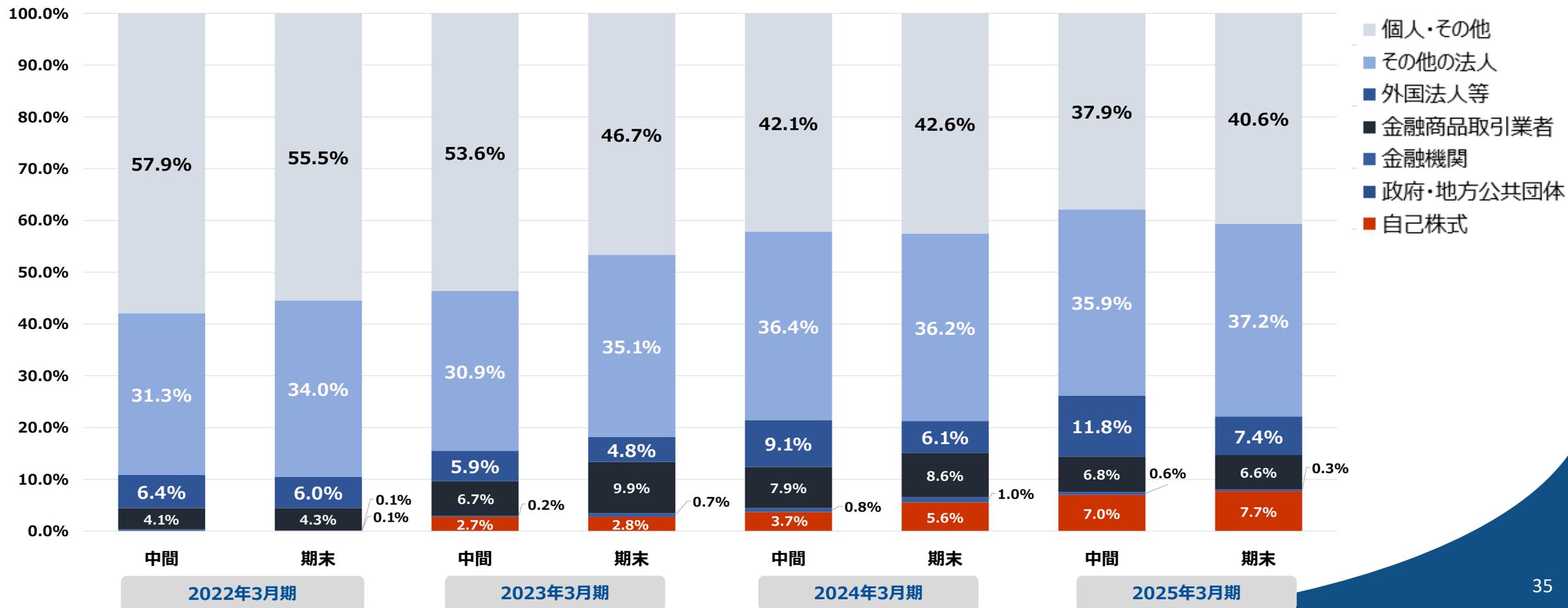
- ✓ グループ役職員が長期にわたって当社グループの株価を持続的に高めることを意識して貢献する意欲を高め、かつ優秀な外部人材の獲得を強化するための施策として2024年3月期に導入
- ✓ 今回実行予定の第15回ストック・オプションは新規入社した社員および昇格昇給者に対する付与分
- ✓ 行使により交付する株式は新規発行ではなく自己株式を充当することで、資本効率を高めつつ成長投資として活用する方針

第15回ストック・オプション（新株予約権）の概要

| | |
|--------|---------------------------------|
| 新株予約権数 | 1,346個（1個につき100株） |
| 権利行使価格 | 836円（2025年4月16日当社終値） |
| 行使期間 | 2027年4月から2035年4月までの間において段階的に行使可 |

株式情報（保有状況分布表）

- ✓ 各期末と比較して海外投資家比率は増加傾向 時価総額の増加と共に中長期保有目的の機関投資家からの注目も増加傾向
- ✓ 引き続き資本政策やIRに注力し最適な株主構成を目指す



金融を、もっと面白く。



Appendix

金融を、もっと面白く。

Traders

資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について

現状分析および評価

金融を、もっと面白く。



- ✓ 当社は株主資本コストを10%程度と認識
- ✓ 過去に収益多様化を目指した他事業への進出を行っていたが、現在は不採算事業から撤退し、収益性の高いビジネス領域である店頭デリバティブ取引へ経営リソースを集中
2025年3月期は**営業利益率約50% ROE29.0%**と高い収益性を実現
- ✓ PBRは直近5期で1.1~1.5倍と東証の求める1倍を超えるも、さらなる改善に向け高ROEの維持と株主資本コストの抑制を図る

当社が認識する資本コスト

| | |
|------------|--------------|
| ①株主資本コスト | <u>10.6%</u> |
| ②加重平均資本コスト | <u>10.2%</u> |

ROE

2025年3月期
29.0%

エクイティスプレッド (ROE-株主資本コスト)

2025年3月期
18.4%

PBR

1.4倍

PER

5.5倍

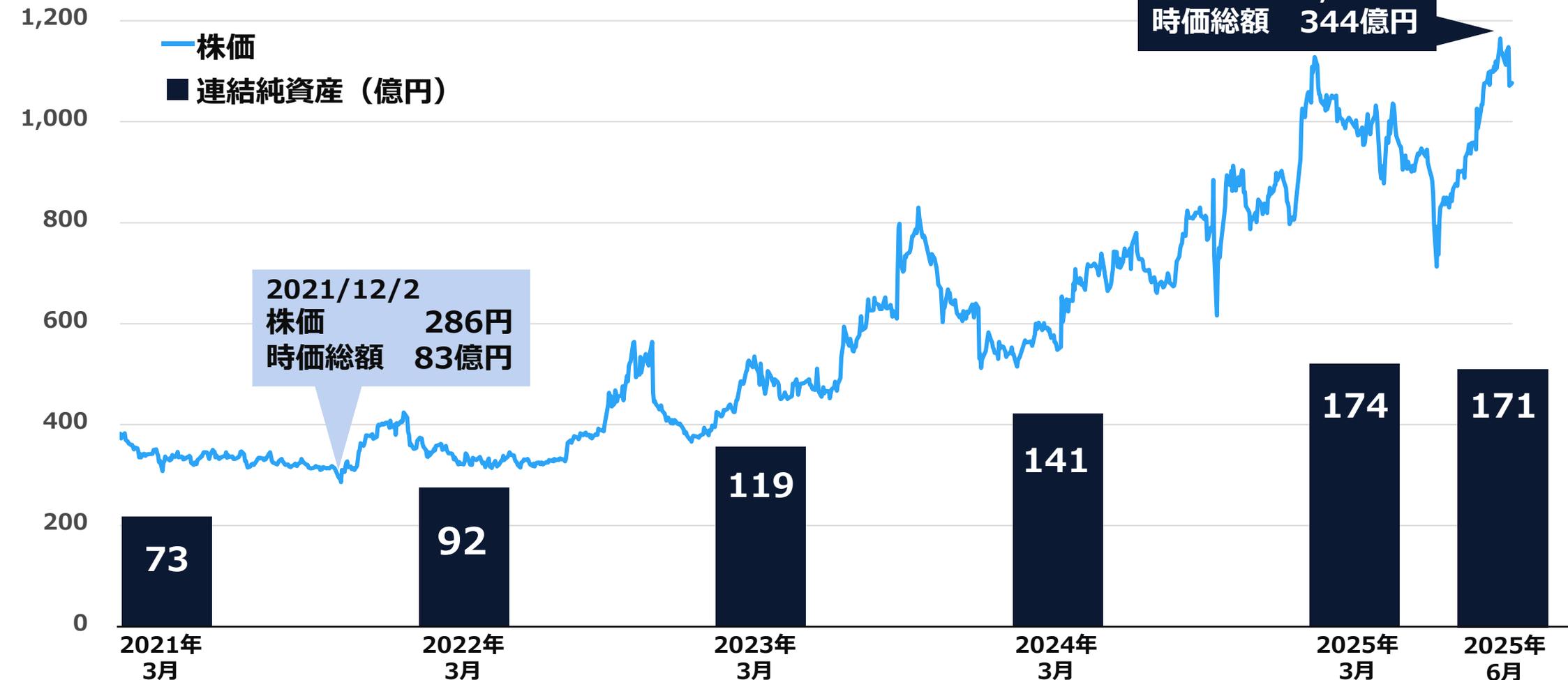
市場評価

金融を、もっと面白く。



- ✓ 時価総額は直近で300億円以上まで上昇 業績の成長および純資産の積み上がりと共に株価も向上
- ✓ 2021年3月末比で純資産は**2.3倍**、株価は**約4倍に**

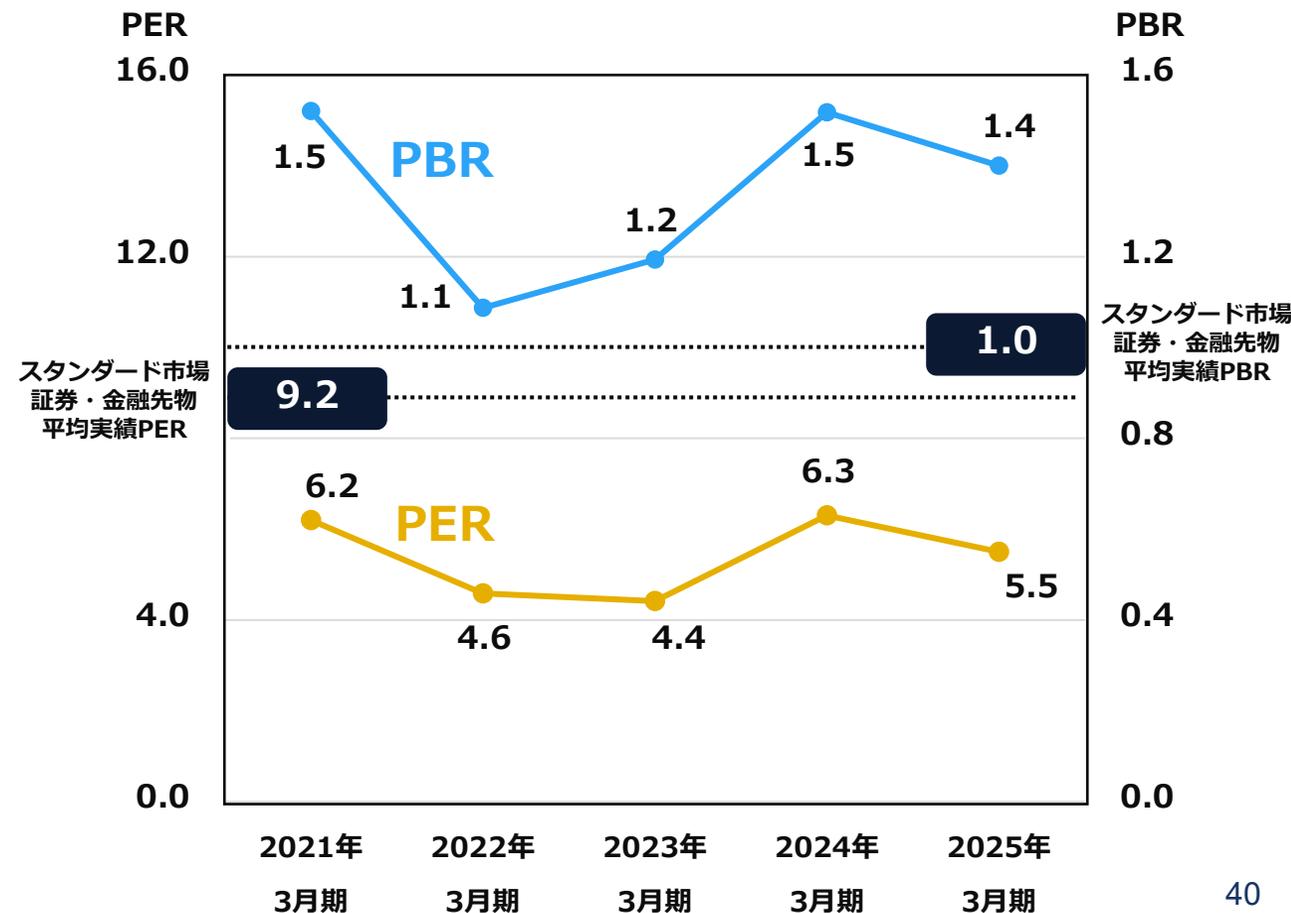
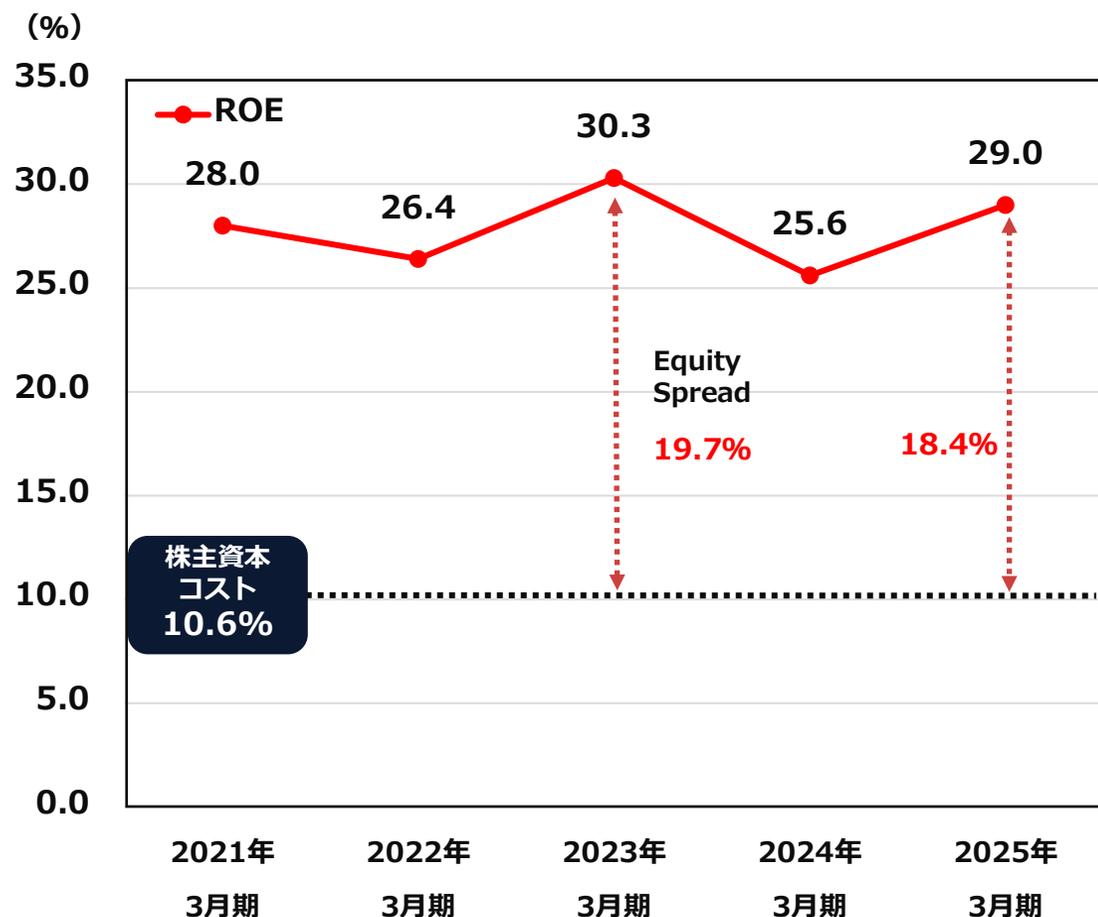
(単位:円)



エクイティスプレッドおよびPBR、PERの推移

- ①株主資本コスト **10.6%** 株主資本コスト= リスクフリーレート+ (マーケットリスクプレミアム × ベータ) + サイズリスクプレミアム
- ②加重平均資本コスト (WACC) **10.2%** WACC = 負債コスト×負債比率+ 株主資本コスト×資本比率

✓ 各市場の平均および他社より高い資本コストと認識しつつも高ROEにより**エクイティスプレッドは5期連続で15%以上を継続**



株主資本コスト認識および当社のポジション

金融を、もっと面白く。



- ✓ 当社株主資本コストは10.6%と全業種平均の9.9%やプライム市場平均を超える水準となっているが、高ROEにより高いエクイティスプレッドを実現
- ✓ 資本コストについて開示を行っている同業他社と比べても**エクイティスプレッドは最高値となっている**

| 企業名 | 市場 | 株主資本コスト | ROE | エクイティスプレッド |
|----------------|--------|---------|------|------------|
| トレーダーズホールディングス | スタンダード | 10.6 | 29.0 | 18.4 |
| 全業種平均 | — | 9.9 | 9.4 | ▲0.5 |
| 証券業界平均 | — | 7.4 | 7.7 | 0.3 |
| プライム市場 | — | 8 | 9.6 | 1.6 |
| スタンダード市場 | — | 8~10 | 6.9 | ▲3.1 |
| 大和証券グループ本社 | プライム | 8~9 | 8.3 | 0.3 |
| 野村HD | プライム | 8 | 5.1 | ▲2.9 |
| SBI | プライム | 8 | 7.7 | ▲0.3 |
| 丸三証券 | プライム | 6~7 | 5.9 | ▲0.1 |
| 東洋証券 | プライム | 6~7 | 3.5 | ▲2.5 |
| 水戸証券 | プライム | 6~9 | 5.7 | ▲0.3 |
| 松井証券 | プライム | 8 | 12.9 | 4.8 |
| 極東証券 | プライム | 7 | 8.6 | 1.6 |
| アイザワ証券グループ | プライム | 7 | 5.5 | ▲1.4 |
| 今村証券 | スタンダード | 9 | 8.7 | ▲0.2 |
| 日産証券グループ | スタンダード | 4~7 | 4.1 | 0.1 |
| 日本証券金融 | プライム | 4 | 5.7 | 1.7 |
| 日本取引所グループ | プライム | 6 | 19 | 13.0 |

出典：株主資本コストに関しては各社のコーポレートガバナンス報告書に記載の内容より抽出 市場および業界平均に関しては独自計算および比較サイトより抽出
ROEは各社の有価証券報告書より抜粋 なお上記掲載企業は証券業界で株主資本コストを開示している上場企業のみを掲載しています。

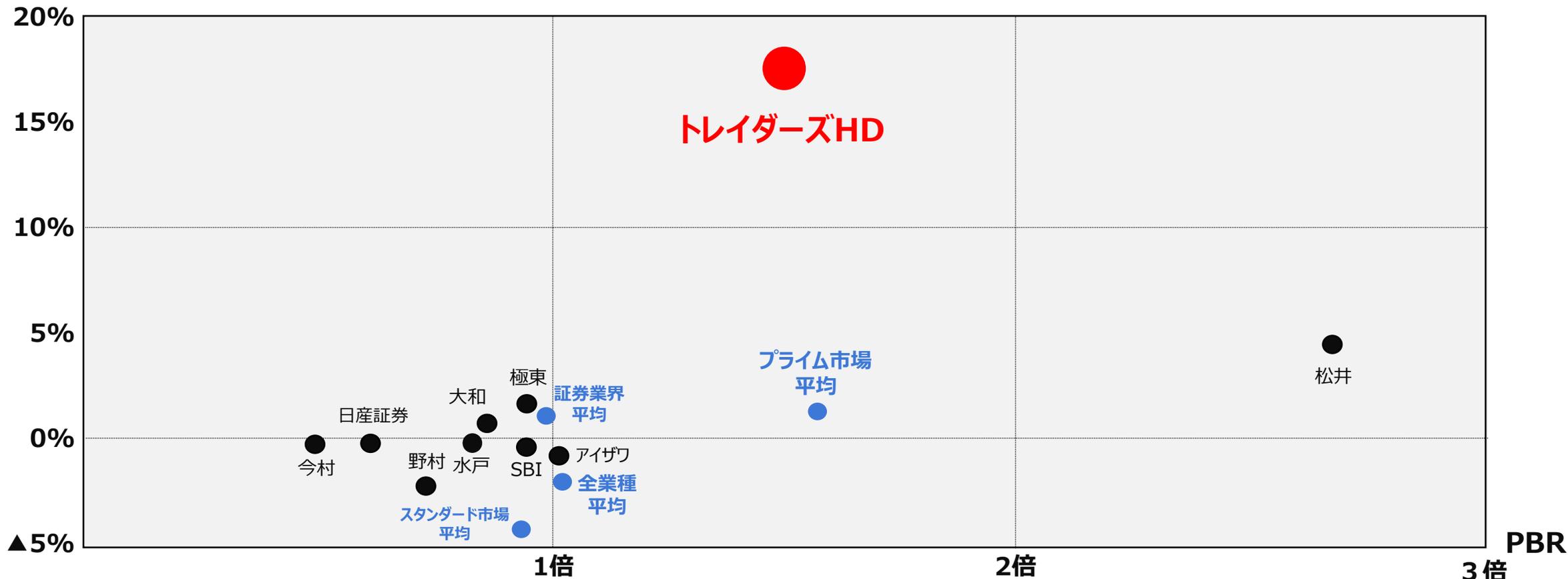
エクイティスプレッドとPBRのマトリックス分析

金融を、もっと面白く。



- ✓ **当社は証券業界内でもトップのROEを実現し、PBRは約1.4倍と東証の要請するPBR1倍を超える**
- ✓ 証券セクターでは収益の不確実性が高い観点から、投資判断において収益性に比べ純資産（PBR）を基準に評価される傾向
- ✓ 但し、証券セクター内でもPBR1倍超を達成している企業は半数に満たない
- ✓ **当社は、連続増益と高ROEを両立・維持しているため、PBRは常時1倍超を達成**
- ✓ 引き続き、業績の成長により企業価値を高め、IRを通じて成長戦略を適切に伝え市場評価向上に努める

エクイティ
スプレッド



注：各社のPBRは2025年3月31日時点での株価を基に開示情報から独自に計算しております。

投資魅力の高い会社として指数構成銘柄に選定

金融を、もっと面白く。



2年連続で「JPX日経中小型株指数」構成銘柄に選定



JPX-NIKKEI Mid Small

2023 - 2024年度選定

資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、「投資者にとって投資魅力の高い会社」が採用される「JPX日経中小型株指数」に**2年連続で**選定されました

□ JPX日経中小型株指数とは

- ✓ JPX総研と日本経済新聞社が共同で算出した、JPX日経400と同じコンセプトを中小型株に適用し、**持続的な企業価値の向上、株主を意識した経営を行っている企業**で構成する株価指数
- ✓ 東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場の対象銘柄の中から、定量的な指標のスコアリングに加え、定性的な要素を加えた基準で行われ、**上位200銘柄が選定**
- ✓ 2年連続選定銘柄はプライム市場133社、スタンダード市場9社、グロース市場8社と**圧倒的にプライム市場上場企業が多い中**での選定となった

Sustainability Policy

トレイダーズグループの考えるサステナビリティ

これまで、わたしたちは様々なステークホルダー、すなわち株主、投資家、お客様、お取引先、社員、関係諸機関等と適切に協働し、もしくは支援を得ながら、企業として少しずつ成長の道を歩んでまいりました。当社グループは、上場会社として、また、様々な事業を営む企業体として、自己の利益だけを追求することなく、これからも、金融商品取引事業とシステム開発コンサルティング事業のそれぞれの活動そのものの中で、長期的に社会や環境に貢献しうるマテリアリティへの取り組みを進めてまいります。今後、当社グループの成長をけん引するために、ステークホルダーとの協働により、社会的価値と経済的価値を向上させ、または、創造する取り組みを推進することこそが、社会や環境面におけるサステナビリティを巡る諸課題に対する、わたしたちの義務と責任であり、使命であると考えています。

社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み①

明治学院大学にて 트레이ダーズグループ初めての大学での金融経済教育を実施

財務局関東財務事務所様にご協力を賜り、共同開催が実現 97%の学生から満足とご回答をいただく

明治学院大学経済学部長藤田教授より要望を受け金融の現場で働く専門家から学生に向けて投資や外国為替の基礎、金融トラブルに関する知識を提供する目的で開催
第1部では財務省関東財務局東京財務事務所様にご協力を賜り杉山理財総括課長による「金融トラブル未然防止講座」、第2部ではトレーダーズ証券取締役で外国為替ディーラーの井口による「人生100年時代へ 新時代を生き抜く、お金との向き合い方」をテーマに講義を行いました。学生からは「長期的な資産形成の重要性についてのお話が特に印象に残りました。」「長期的な積み立てを行ううえで、複利の効果を活用することの重要性などについて学びました。」「早いうちからお金に関する知識を身につけ、正しく計画的に運用していくことが、将来の経済的な安定につながることを実感しました。」「これまで投資や貯蓄の話はどこか遠いもののように感じていましたが、今回の学びを通して、それらが自分にとっても身近で現実的なテーマであると気づくことができました。」と非常に満足度の高いコメントを頂戴しました。



社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み②

昨年より引き続き当社グループが本社を置く渋谷区と連携、区内の小学校において出張授業プログラムを開始

4 質の高い教育を
みんなに



トレーダーズホールディングス、トレーダーズ証券FleGrowth：
経済産業省と日本健康会議が共同で選定する
「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」に初めて認定

8 働きがいも
経済成長も



当日の小学校でのプレゼンテーションの様子

昨年4月に東京都渋谷区的全公立小・中学校で探究「シブヤ未来科」が本格的にスタート。昨年も好評であった当社グループが渋谷区に提案させていただいた金融リテラシー向上支援を主眼とする出張授業プログラムを、**2年連続で区内の長谷戸小学校にて採択いただきました**。今期は6年生2クラス合計約50名にご参加いただき、第1回目の授業では非常に活発議論をいただき、投資シミュレーションの結果発表時には非常に大きな歓声があがりました。



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
中小規模法人部門

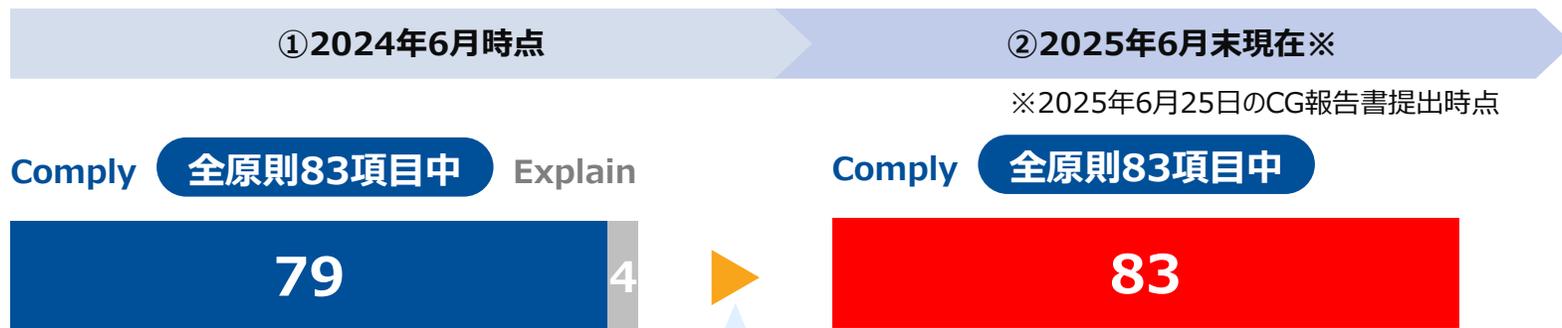
経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」に初めて認定されました。

「健康経営優良法人認定制度」は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度です。「トレーダーズ・グループは、職場の安全と社員ひとりひとりの心身の健康を守り、従業員が社会的にも満足するという状態を作り出すために、ウェルビーイング経営に取り組む」との社内環境整備方針のもと、様々な施策を積極的に推進してまいりました。

今回の認定を励みとし、今後もグループ一丸となって従業員の健康維持・増進と働きやすい職場環境の整備に取り組み、企業価値の向上に努めてまいります。

コーポレート・ガバナンスの高度化とより一層の充実に向けた取り組み

当社における東証「コーポレート・ガバナンス・コード」全原則Comply達成！！



プライム市場に
相応しいレベルへの
到達を目指し
さらなるガバナンスの
強化を進める

Complyに向けて当社が改善してきた主な事項

ポイント1！

【女性の活躍促進を含む社内
の多様性の確保】

採用選考時や管理職登用判断時に性別・国籍等の属性や年齢に関わらず、求める能力・経験、業務成果等に基づいて公正な評価を実施

ポイント2！

【サステナビリティ、人的資本や
知財への投資についての開示】

若年層の金融リテラシー向上への取り組みを中心とした幅広い活動内容をホームページ・各種開示資料等に掲載

ポイント3！

【サステナビリティ、人的資本や
知財への投資について取締役
会の関与】

取締役会により設立されたESG推進委員会が活動推進。知財戦略は専門部署を設置し推進

ポイント4！

【資本コストや株価を意識した
経営】

2025年3月期決算説明資料にて、自社分析・業界他社比較を行った上で自社の課題を認識し、今後の取り組みの方向性明示

プライム市場への区分変更へ向けた今後の方針

形式基準の達成

費用対効果を含め
課題の検証と解決

企業規模と
ガバナンス
の十分な強化

最適と判断した
タイミングにて
プライム市場へ
区分変更申請予定

ポイント1！

時価総額、流通株式時価総額、収益基盤、財政状態、株主数、流通株式数、流通株式比率等の形式基準はすべて達成

しかしながら、株式市場全体が大きく下落するようなタイミングでは時価総額基準を再び下回る可能性も排除できない水準

ポイント2！

プライム市場上場企業として求められる体制整備に伴う課題・管理コストに関して多角的に検証必要

- 例
- ・海外投資家向けを含む充実した開示
 - ・女性役員比率の向上等

ポイント3！

真にプライム市場上場企業にふさわしい企業規模とガバナンス体制の強化

FleGrowth オフショア開発拠点

金融を、もっと面白く。



✓ 大連、ハノイ2つのオフショア開発拠点により、高収益体質を実現

大連拠点

コア技術を持った開発部門として、高度なシステム開発及び運用保守を行う。20年以上FXシステムの開発に携わってきたメンバー約40名が在籍。



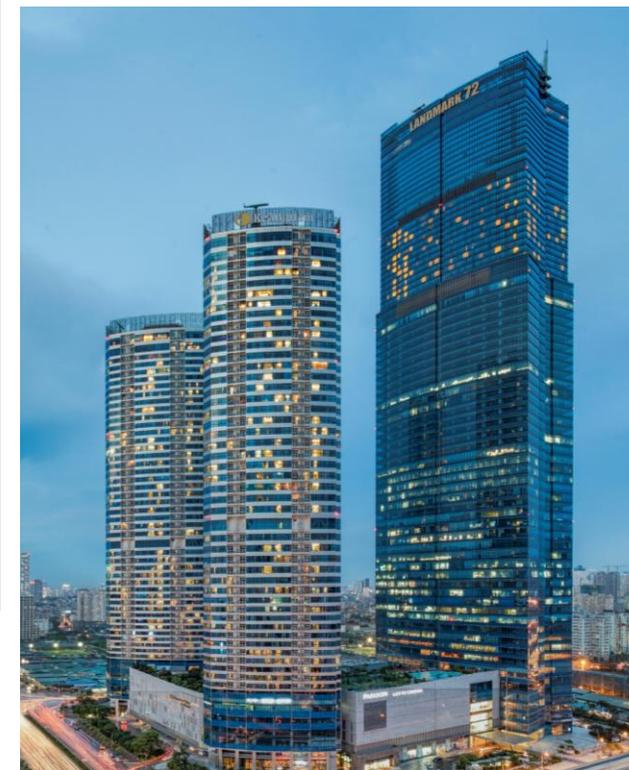
大連拠点の入居する大連ハイテクゾーン

大連拠点のある大連ハイテクゾーンは中国の国家級ハイテクノロジー地区の一つ中国東北ハイテクノロジー産業の集結地帯であり世界のハイテク企業・機関が集中している。北京・上海・広州に次ぐ中堅の経済都市



ハノイ拠点

金融周辺システムの開発部門



ハノイ拠点の入居するAONハノイランドマークタワー

ハノイで最も高くベトナムで2番目に高い建物
ハノイ拠点所属の約110名のシステム人員が開発、運用保守業務に従事

金融を、もっと面白く。



MISSION

ミッション

新たな価値を創造し続ける

Create the New Values

VISION

ビジョン

お客様から最も信頼される“FinTech”グループとなり、
だれもが未来に投資できる社会を実現させる

金融を、もっと面白く。

traders

VALUE

バリュー

トレーダーズ
ホールディングス

関わるすべての“人”を大切にしながら、
コンプライアンスとダイバーシティ（多様性）を尊重した経営で、
変革にチャレンジし続ける

トレーダーズ証券

金融リテラシーの向上に貢献しながら、
お客様と社会が求める新たなサービスの提供にチャレンジし続ける

FleGrowth

競争力のあるサービスを提供しながら、スピード感をもって
安定的かつ革新的なシステム開発にチャレンジし続ける

本資料に関する注意事項

当資料に掲載されている事業戦略や目標数値、見通し等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断した内容であり、実際の業績等の結果は、今後の経済情勢や事業環境、為替市場の動向等、様々な不確定要素その他リスク等に起因して、記述とは大きく異なる可能性があります。

また、マーケットシェアや市場規模等の数値について一部当社の推計値が含まれており、調査手法等によって異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に関するお問合せ

トレーダーズホールディングス株式会社
ir@tradershd.co.jp (IR担当)



金融を、もっと面白く。